

(様式5)

# 調査報告書

訪問調査日	2008年12月11日
調査実施の時間	開始 9時 30分 ~ 終了 13時 30分

訪問先事業所名 (都道府県)	グループホーム あがいやんせ ( 鹿児島県 )
-------------------	----------------------------

## 外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を实践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<b>30</b>

評価調査員の氏名	氏名 <u>石松 成子</u>
	氏名 <u>福留 昭</u>
事業所側対応者	職名 <u>管理者 計画作成担当者</u>
	氏名 <u>海老原 由香 川下 理恵</u>
	ヒアリングを行った職員数 <u>3 名</u>

**※記入方法**

- 「取り組みの事実」欄は、ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入してください。
- 「取り組みを期待したい項目」欄は、今後、さらに工夫や改善が必要と思われる項目に○をつけてください。

**※項目番号について**

- 外部評価項目は30項目です。
- 「外部」にある項目番号が外部評価の通し番号です。
- 「自己」にある項目番号は自己評価で該当する番号です。参考にして下さい。

**※用語について**

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

### 1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 12月 14日

#### 【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定 第4676300116号		
法人名	医療法人 愛 誠 会		
事業所名	グループホーム あがいやんせ		
所在地	鹿児島県曾於市大隅町岩川5520番地 (電 話) 099-482-2535		
評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島市星ヶ峯4-2-6		
訪問調査日	平成20年12月11日	評価確定日	平成21年1月4日

#### 【情報提供票より】 ( 20年11月 1日事業所記入)

##### (1) 組織概要

開設年月日	平成 11 年 9 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 6人, 非常勤 3人, 常勤換算	8.6人

##### (2) 建物概要

建物構造	木造瓦葺平屋 造り
	1 階建ての ~ 1 階部分

##### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,150 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有 ( 円) ○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 ( 円) ○無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり		900 円	

##### (4) 利用者の概要 ( 11月 1日現在 )

利用者人数	9 名	男性 2 名	女性 7 名
要介護1	5 名	要介護2	1 名
要介護3	3 名	要介護4	0 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 84.9 歳	最低 79 歳	最高 94 歳

##### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人愛誠会昭南病院
---------	-------------

#### 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

入居者の尊厳を大切に、力量を活かした具体的な介護計画を作成している。全職員が介護計画を基にして認知症ケアについて目標を掲げ、買い物から食事づくり・洗濯・ハウスでの農作業など楽しく一緒に取り組んでいる。毎月の家族面談で思いや意思疎通が図られ、意向を把握している。野菜づくりや保存食作りなど、家族と職員が家族的な雰囲気、さりげなく見守り支えあっている。母体法人病院からの往診や訪問看護など医療連携が充実している。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	職員の異動等による影響への配慮について、体制の変更によるやむを得ない場合の影響を考慮し、様々な行事を計画し、利用者とスムーズに馴染めるよう工夫して、改善されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	時間をかけて全職員で取り組み、評価項目ごとに確認し、改善点等話し合い、サービス向上に活かしている。職員が評価の意義を理解しサービスについて意識向上に役立っている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	災害対策の訓練への地域住民の協力について話し合い、消防分団や住民の協力が結びつき理解が深まった。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月の家族面談、家族会、運営推進会議など家族からの意見や希望・不満など聴く機会を設けている。それらの希望や意見が介護計画やサービスに活かされ、ホームの質向上に反映されている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自発的に地域の神社の清掃を行ったり、小学校の運動会の見学、中学生の体験学習の受け入れなどを実施し、地域住民との交流に努めている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者一人ひとりの個性や力量を活かし、暮らしつづけることを支えていくサービスとしての理念を作っている。	○	地域密着型サービスとしての理念を作り上げていくことが望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は居間の見やすいところに掲示している。入職時に理念について説明し、理念を共有し、理念の浸透と意識したサービスの実践に取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会には未加入であるが、自発的に地域の神社の清掃を行ったり、小学校の運動会の見学、中学生の体験学習の受け入れなどを実施し、地域住民との交流に努めている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解し、時間をかけて全職員で自己評価に取り組み評価項目ごとに確認し、ケアの振り返りや見直し等話し合い、意識向上に役立てている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に入居者・家族・地域住民・行政など多くの参加者で定期的開催している。ホームの行事や実態についての報告や、話し合いを行い、意見や助言を一つひとつ積み上げていくようにしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	入居者の状況に応じて、相談・報告をしている。法人主催の研修会を通して市職員との連携・協力関係が築かれており、運営やサービスの課題解決に向けて共に取り組んでいる。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回の家族面談で、入居者の様子を画像で紹介し、経過記録による暮らしぶりや健康状態の報告・カンファレンス・評価・金銭出納帳など個別に丁寧に報告している。遠方の方には手紙やメールで報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月の家族面談・家族会・運営推進会議などで家族から希望や意見・不満・苦情等、何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに留意し、介護計画やサービスに活かし、サービスの質向上に反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者や職員の馴染みの関係を築くことの重要性を認識し、やむを得ない離職や異動には、様々な行事を計画し、利用者やスムーズに馴染めるよう最善の努力をしている。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修プログラムに基づいて、段階に応じた研修を実施している。外部研修や法人主催の研修会など研修の機会は確保されている。全職員が共有できるよう、ホームでの勉強会や研修報告を行なっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会に参加し、地域の同業者と情報交換や交流をしている。法人内のグループホームと連携・協力し、サービスの質向上の取り組みもしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	職員が自宅訪問やホーム行事に招待したり、本人や家族等に事前の見学や体験利用をするなど、利用者がホームや職員と徐々に馴染めるよう工夫している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の大先輩として、野菜の栽培やみそ・梅干し・らっきょう漬けなど保存食のつくり方、生活の知恵など、共に暮すなかで多くのことを教えてもらい、支えあう関係を築いている。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、入居者の行動や言葉の一つひとつを大切に傾聴に努めている。毎月の家族面談では、入居者・家族の思いや意向を聴き、利用者本位で検討している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者のできる事やできそうな事を本人や家族・担当者・その他関係者の意見を聴き、協議し、個別に具体的な介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月カンファレンスを実施しており、評価やケア内容の変更など家族や職員と話し合い、要望や状況に合わせて、計画の見直しを行っている。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族と相談し、通院送迎・受診介助・墓参り・外泊時のケアポイントの説明・医療連携体制による訪問看護との連携など、柔軟な支援を行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望に応じて、かかりつけ医への情報提供と連携に努め、適切な医療受診の支援を行い、必要時は往診による受診も支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に説明文書にて重度化や終末期についてホームの対応方針を説明している。状態変化した場合は、緊急に家族面談を実施し、主治医の意見をもとに、関係者で話し合っ方針を共有している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーに関するマニュアルの作成や、研修を実施し、職員の意識向上に努め、言葉かけや対応など配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スケジュールは特に決めずに、起床や就寝時間・散歩・買い物など、入居者のペースに合わせ希望や思いを大切に生活支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は好みのものを取り入れたりしながら入居者と相談して決め、自分達で育てた菜園の野菜を収穫し、入居者と職員と一緒に調理している。作ってくれた人に感謝しながら楽しく食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は決めずに、いつでも入浴できるようにしている。入浴を好まない方にはタイミングを見ながら入浴が楽しめるように支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者それぞれの生活歴や得意なこと、できることなどを把握し、食事の準備やゲートボール、ハウスでの農作業・花見・温泉旅行等、役割や楽しみごと気晴らしを計画的に支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	法人施設の東屋やハウスに出かけたり、近隣の「道の駅」への買い物・ドライブ・外食・季節の行事など、希望にそって外出の機会を設けている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居者の行動パターンを把握し、遠くから見守るなど支援方法をカンファレンスで話し合い、ホーム全員で鍵をかけないケアを実践している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、地域の消防分団の出動を依頼し住民も参加しての、昼・夜間想定などの防災・避難訓練を実施している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎日チェック表に記録し、職員全員で情報を共有している、栄養バランスについては協力病院の栄養士にアドバイスをもらっている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	民家を利用したホームで、広い和室や廊下など落ち着いた雰囲気がある。台所に流し台が二つあり使い易い。テラスには椅子が置かれていて、ゆっくりと時の流れを楽しめる居心地のよい共用空間である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、基本的に本人や家族にお願いし、本人自慢の表彰状や家族手作りの花・お気に入りのぬいぐるみ・家族の写真などが飾られ、居心地よく暮らせるように配慮している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。